

〈隸書〉

閑中覓伴書為上
身外無求睡寢安

小島秋聲先生書

(この課題で書体は自由。但し、この課目は一人一点のみとする)

半折作品は各課目ごとに横／＼に一枚ずつたたんで提出ください。

〈楷書〉

閑中覓伴書為上
身外無求睡寢安

清原大龍先生書

□ 閑中伴を覓め書を上と為す、身外求むる無く睡最も安し (劔掃)

次号予告「竹陰濃疊千重翠 松吹晴暄萬壑雲」

〈行書〉

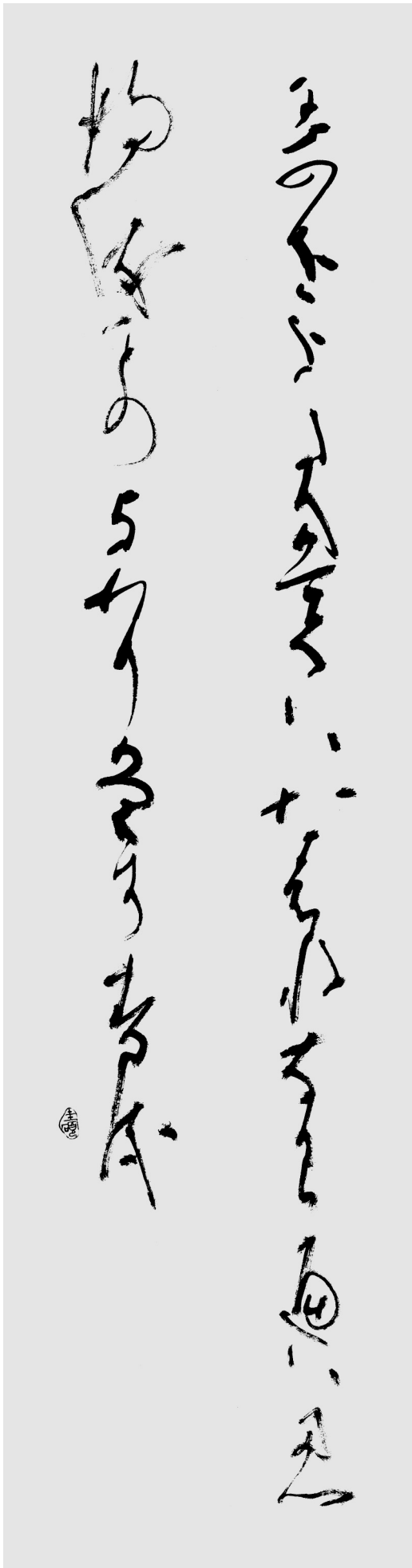
山本飛雲先生書



▽清閑中につれを求めるのは書物が何よりで、一身の外に求め望むことがなければ、きわめて心安くねむられる。

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

舟尾圭碩先生書



□玉のをよ 多^{たえ}盈^えな八^はたえね な可^から遍^へ八 忍^{にん}婦^ぶ流^{りゅう}ことの 与^よわり裳^もそ春^{はる}流 〆百人一首八十九〃

条幅随意（臨書）（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点のみとする）

渡邊大嶽先生臨

大伐太和七年新城
縣功曹孫秋生

大嶽臨

▽孫秋生造像記

大伐太和七年新城縣功曹孫秋生

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

吉田成堂先生書

貝殻よ海邊の虹が美しい
夢を 見續けるがよい

□「海辺の虹」 高橋新吉の詩 貝殻よ 海辺の虹が 美しい夢を 見続けるがよい

△手本（課題例）にとられず意欲的な作品を期待します。▽

半折作品は各課目ごとに横に一枚ずつたんで提出ください。

条幅随意参考手本（半折½縦のみ） — 7月末日締切 —

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



□ 山口青邨の句 万緑の 墨のごとしや 海芋^{かいよう}さき
俳句に詠まれる“カイウ”とは、園芸界でいう“カラー”のことだという。ぜひ、いろいろな表現を試みてください。

井之上 南 岳 先 生 書

条幅随意参考手本（半折 $\frac{1}{2}$ 縦のみ） — 7月末日締切 —

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



□「清露」（江淹）けがれのない、清く澄んだ露。

ゆとりのある筆（羊毛筆）とや、滲^{にじみ}のでる墨色で、「清」は多墨で、「露」は細線と渴筆を意識して余白の美しい作品に心掛けてみました。いろいろな書体にも挑戦しよう。

吉田成美先生書

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)

□ 道を楽しみて貧^{ひん}を忘る（「淮南子」詮言訓）
道を楽しんで欲を持たず、貧をも忘れる。昔の賢者の生き方。



次号予告「蛟龍得雲雨」

吉田成美先生書

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)

□ 道を楽しみて貧^{ひん}を忘る（「淮南子」詮言訓）
道を楽しんで欲を持たず、貧をも忘れる。昔の賢者の生き方。



次号予告「蛟龍得雲雨」

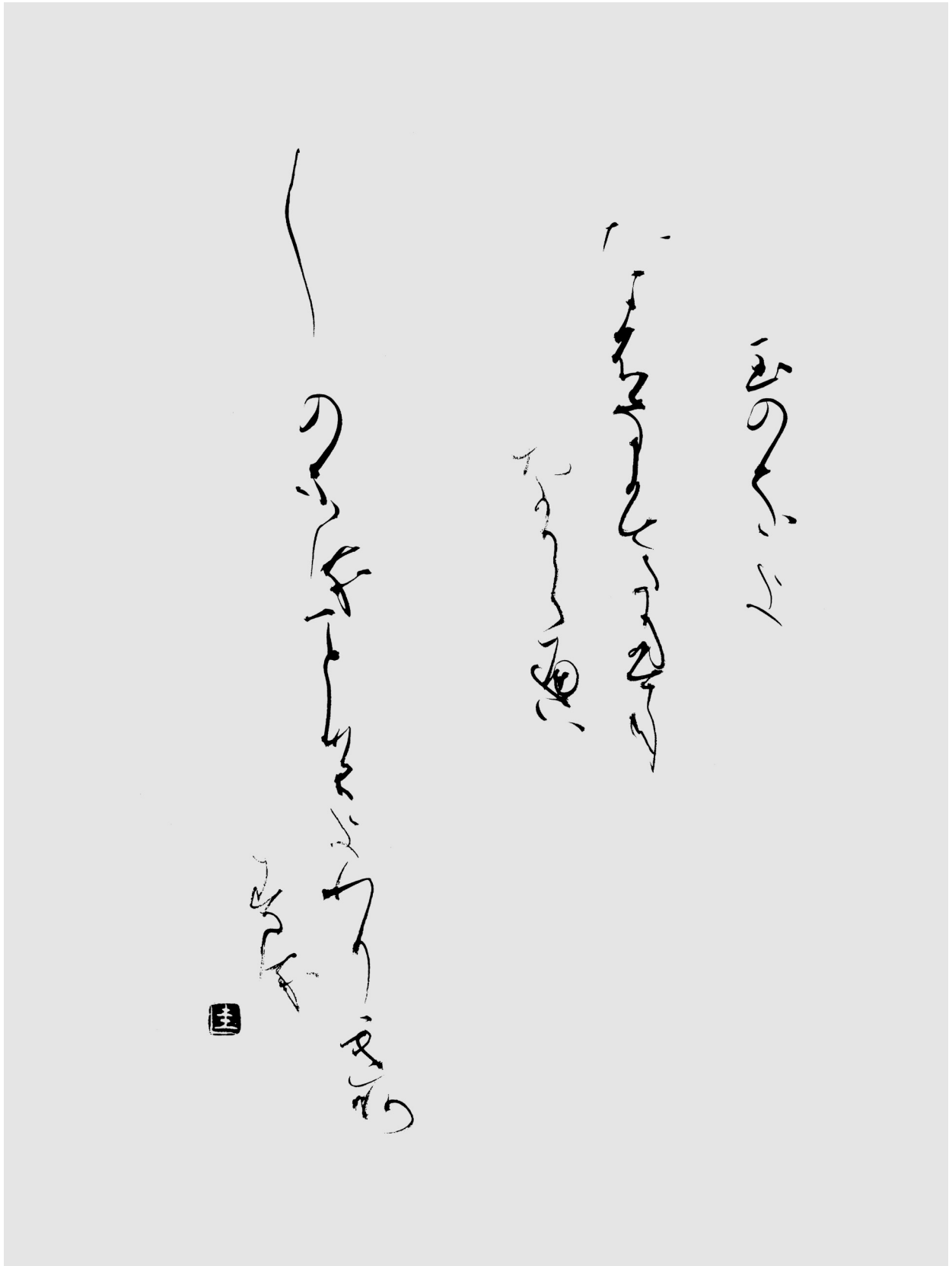
吉田成美先生書

半 紙 随 意 参 考 手 本 — 7月末日締切 —

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△ 仮 名 △

玉のをよ たえなはたえぬ はたえぬ なからへは なからへは しのふ流こと農 しのふ流こと農 よわりも所春流 よわりも所春流



玉のをよ たえなはたえぬ なからへは 忍ふることの 弱りもそする

舟 尾 圭 碩 先 生 書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△詩文書▽

飴山実の句 金魚屋の
とどまるところ 濡れにけり



※出品券は、半紙をタテにした左下に貼って提出ください。(ヨコ作品の場合も半紙をタテにして同様に貼ってください)

兵頭白慧先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

□ 空手還郷 (永平広録 一)

何も持たずに故郷に帰る。何か握ったと思うのは、真の悟りではない。



次号予告「易直子諒」

清原大龍先生書

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点とする）

△臨書▽
解説をよく読んで、線に勢いづけ、力強く伸びやかに書こう。

新城縣
曹孫

軍
長
成
美

成美

「新城縣功曹孫」

吉田成美先生臨

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

姓 号	御香典	御中元	寸志	御祝
	御布施	金一封	月謝	内祝
	御佛前	御祝儀	御車代	御見舞

△実用書▽

御祝 内祝 御見舞 寸志 月謝 御車代 御中元
金一封 御祝儀 御香典 御布施 御佛前

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△手紙文▽

園芸を始める前は可愛かったバッタや蝶を
害虫として追い払い見るのも嫌い
だった蜘蛛やミミズが愛おしく声援を
送る変わり様です 彼等にとっては私が
一番の厄介者なのです
志津

園芸を始める前は 可愛かったバッタや蝶を 害虫として追い払い 見るのも嫌いだった蜘蛛やミミズが愛おしく 声援を送る変わり様です 彼等にとっては 私が一番の厄介者なのです 志津

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目A・Bのいずれか一点のみとする)

△暮らしに役立つ書▽

書譜

暑中お見舞申上げます

暑い日が続いておりますが、お変わりなくお過ごしのこと、存じます。

この夏気象庁は、最高気温が三十七度を超える日を、スーパー猛暑日と定め、西日本は多くなるとか。日課のジョギングは、無理なやらず、自己愛くだいませ。

美紀

平成二十九年 盛夏

野のある便箋に書いてみよう。

△ 26 cm × 18 cm ▽

紙質は自由。

※ 本研究社にて「特選便箋」を発売しております。本誌裏面をご参照の上、ご利用ください。

兵 頭 白 慧 先 生 書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目A・Bのいずれか一点のみとする)

	戻して、和食文化の粹を守りたい。	泳ぐ数を乱獲前の状態に少しでも	なぎには受難の始まりだった。海に	まいった。日本人にとっての至福は、う	蒲焼きの料理法は、江戸のころに始
段 級					
氏 名					



一般の方も是非チャレンジしてください。

(この課題以外の語句のものもよい。但し、その学年にふさわしい語句が望ましい。)

はすの花

小学4年

光るにじ

小学3年

ふうりん

小学2年

なみ

ようねん・小学1年

流れる雲

中学2・3年

輝く月光

中学1年

創造力

小学6年

山登り

小学5年

秋永春霞先生書

△条幅¼Ⅱ四尺画仙紙半折¼: 68cm×17・5cm▽

ようねん・小学一年

次号予告「こめ」

なみ

□書き始めは、筆に墨をたっぷりふくませ、鋒先をきれいにとのえましょう。

小学二年

次号予告「むぎのほ」

りぶん

□「ふ」「り」の「ハネ」に、気をつけて書きましょう。「ハライ」はゆつくり、ていねいに。

坂元紫香先生書

小学三年

次号予告「茶つみ」

光

□画の接する場所や、「ハネ」「ハライ」「曲がり」に気をつけ、伸びやかに書こう。

小学四年

次号予告「風道」

のは
花す

□平仮名の「結び」は軽く筆をうかせてゆつくりと進み、「花」は字形に注意しよう。

吉田成美先生書

小学五年

次号予告「秋の夜長」

登山

□「はつがしら」の書き順に注意し、払いを伸び伸びと。「山」は左右の空気に気をつけて。

小学六年

次号予告「天然肥料」

創造

□二文字の中心に注意して、「造」の「しん」による、を伸び伸びと書きましよう。

秋 永 春 霞 先生 書

中学一年

次号予告「人間の尊厳」

月光

□文字の中心に気をつけ、点画の連続を理解し、リズムに乗って思いきりよく書こう。

中学二・三年

次号予告「人権尊重」(行書)

流るる
雲机

□漢字と仮名の筆脈や文字の大きさを意識しながら、調和のある作品に心がけよう。

吉 田 成 美 先生 書

段 級										
氏 名										
「とめる」にほ 一ニま 一十あ										
ほ し 井 り の が わ た く す く く										

ようねん (※ようねんの方は、小学一年の課題を書いてよい。但、審査は従来通りです。)

段 級										
氏 名										
小学一年										
井 わ し く 井 わ む む ら ら く る ん ら る る										

いむむ しむむ りん

下の
はねないで
よ！せんにける◎はねる

[illegible]

● ななめにうつ
● はねる

氏名	段級			
「ふは歌」を楽しむ者 しやう。世に出して読む てはぬや。言葉の調子か うにふかふかにする。				

永三年

(お)

[illegible]

「人々のために働く」

段	級										
氏	名										
女	子	だ	た	し	た	ち	を				
小	女	な	あ		魚	の					
一	は		見	つ	け	た					
岩	か	げ	に		又	人	三				

小学二年

小学四年

①はねる ②つき出ない ③間をあける 「F E 耳取」 一 十オ木村材 (ざい) 戸言東 敎 弊 整	
段 級	氏 名
みなさんが多いの人に知 らせた、いゝを考へて取 材をし、調べた、いゝを整理 して新聞を作りあげた。	

坂元紫香先生書

①はねる ②つき出ない ③間をあける 「F E 耳取」 一 十オ木村材 (ざい) 戸言東 敎 弊 整	
段 級	氏 名
薬師寺の工事が始まって、いぎ を宮大工の人たちにわたすよ うになつてから、も改良を続け た。そうして、いれまて二万四千 本ものいぎを作つてきた。	

小畠秋聲先生書

薬師寺 (やくしじ)
 「F E 耳取」 一 十オ木村材 (ざい)
 戸言東 敎 弊 整

上 丰 来 裁 裁

その頃、人々はポリネシアから運ん	てきたバナナやタロイモを栽培し、	豊かな海の資源を採って生活して	いた。そして、十一世紀頃、突然巨大	なモアイの製造が始まる。
段級	氏名			

中 字

作った短歌を短冊に書いて読み 合いました。友達のだのしめ が伝わって来ました。すてき だな。と思う表現がありました か。友達に感想を伝えました。			段級	氏名
--	--	--	----	----

一 二 三 四 五

十 上 十 壺 壺 達

●点をおとさない
●左上にはねる

小 畠 秋 聲 先 生 書